

作品担当者



野地 伸卓

株式会社 nojimoku (紀南支部)

展示場 | 熊野市井戸町

木挽座-kobikiza- ~ひくほど製材が楽しくなるショールーム~

構造 | 木造

階数 | 地上 2 階

敷地面積 | 218 m²

建築面積 | 76.11 m²

延べ面積 | 103.78 m²

竣工 | 令和 6 年 7 月



外 観 (北西)



打合せスペース



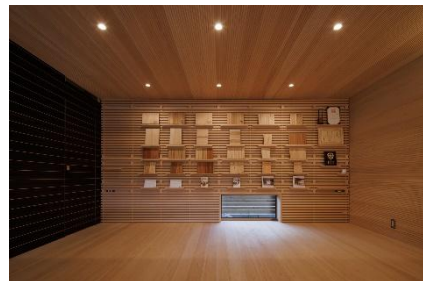
打合せスペース



外 観 (南西)



Bar スペース



ホール

作品コンセプト

製材所である nojimoku では設計者、工務店、消費者に向けて熊野の山から製材工場を順に案内し、木が丸太に、丸太が木材になっていく過程を見せることで、自分たちのものづくりや、品質へのこだわりを伝える「のじもくツアー」を 20 年間続けてきました。

「木挽座」は、これまで抜けていた最後のピース「木材が建築となった空間を見せたい」という想いを実現するために立ち上げたプロジェクトです。製材技術の奥深さと木の魅力を体感できる建築を目指しました。

設計段階では、新築ではなくリノベーションにこだわり、既存家屋を活かすことで社会的・地域的に大きな意味を持たせました。新築着工戸数が減少し回復の見込みがない現状において、リノベーションにおける内装・外装の木質化利用拡大に寄与できる施設を目指しました。また、ただ「木を多用しただけ」や「表面的に使っただけ」ではなく、木という素材の正しい使い方、その魅力を最大限に伝えることを意識しました。

都市部の方々にも「田舎臭さ」や「山小屋」のような印象を与えない、洗練された木の建築を実現し、地域の財産である三重の木を再認識していただく機会を提供したいと考えました。さらに、建物の性能を根本的に改善・向上させることで、表面的な取り繕いではないリノベーションの可能性を感じていただける施設を目指しました。

地域景観への配慮として、外装には三重の木を様々な形で使用し、地域材の PR とともに、建物外装のメンテナンス時における木材利用の魅力を訴求しました。また、敷地角には地域の植生を反映した庭を整備し、通行人や地域の方々にとっての潤いと憩いの場を提供できるよう心がけました。

この「木挽座」を通じて、製材技術の奥深さや木の魅力、そしてリノベーションの持つ可能性を多くの方に感じていただければ幸いです。